

社団法人 私立大学情報教育協会  
サイバー・キャンパス・コンソーシアム  
平成22年度 第3回生物学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日時 平成22年12月2日(木) 13:30~15:30  
II. 場所 私立大学情報教育協会事務局  
III. 出席者 伊藤委員、須田委員、佐野委員 (事務局 井端、森下、平田)

IV. 検討事項

1. 授業モデルの趣旨説明

- 学士力の実現を目指すICT活用(授業モデル案)について事務局から以下のように趣旨説明があった。
- ・授業モデルがなぜ5年先を見据えたものであるのかについては、大学教育について社会の理解が得られないまま就職活動が長引いており、大学教育に影響している問題が生じている。4年間しっかり学びができる授業モデルの開発を行い、大学の他、社会にもアピールしていきたい。
  - ・関連情報として、新聞記事(参考1)は、卒後3年は新卒扱いにしてもらいたいという提言で、経団連は、大学の学びがしっかりできている学生を人材として必要としており、求める人材像の提言も検討しているというものである。
  - ・新聞記事(参考2)では、学びをしっかり行うことに重点を置いて採用時期に余裕をもっている企業には、法人税の優遇措置など、大学で学びをしっかり行うような社会の協力が必要という内容である。
  - ・そのため、このような産業界、社会の動きも踏まえ、本協会の授業モデルでは、現在のレベルではなく、理想的なレベルで授業モデルを検討していただき、内容はシラバスではなく、授業デザインの提案を想定している。

2. 各委員の授業モデル案と議論

以下のように各委員の提案によるモデル案の説明の後、議論が行われた。

○「基礎生物学」

話は聞くが触ったことがないという学生が多く、体験させるための講義と実験を合わせた授業モデル案で、5回実験、10回講義、事前学習、課外授業(ICTを活用した自宅学習)の組み合わせとした。

○「生物学」「生物学概論」

「生物学」や「生物学概論」は全大学生に学んでほしい内容が網羅されているので、その授業をもとに15回でまとめた。1セメスターを想定している。

高校生物で触れられなかったり説明が不十分で理解しにくいことで重要な概念や解決されていない事柄などを焦点にまとめた。

○「生物学I」

用語理解と説明における定着確認：eラーニングなどを用いた客観テスト

考察力確認：遠隔ファシリテータによる閲読、添削

応用力確認：オンラインフォーラムによる議論、コンテンツ参加体験、動画プラットフォームでの複数大学さんかによるコンペ形式による発表会。

- ・生物学の基礎での現状の問題として、高校で生物を学んでこなかった学生と、学んできた、あるいは用語だけでも知っている学生との格差がある。
- ・15回の授業では生物学の授業は終わらないので、そこからまず考えたほうがよいのではないか。
- ・生物が教養教育の基盤として確立していく必要があるのではないか。  
専門教育との融合について検討すべきではないのか。  
→専門教育への橋渡しをするための教育と位置づけではどうか。
- ・生物学とは何かを教養教育とし、その後で他分野との連携を提示するのがよいのではないか。  
(伊藤委員のガイダンスの内容を増やす。)
- ・学習意欲向上のための工夫  
学生の発表を社会にも発信し、社会から反応をもらうような、学びと社会の関連付けとなる仕組みもよいのではないか。生物と社会の関連づけにつながるのではないか。生物と社会との関連づけは重要であるので、そこまで導きたい。
- ・あるテーマについてのシナリオのコンテストを行い、専門家が評価する。毎年蓄積され、ブラッシュアップされる。また、マスメディアなどにも参加してもらうなども考えられる。
- ・専門家だけの意見、考えだけで構築していくのではなく、社会など多様な意見を取り入れることを重視している。(他分野例：法律学、建築学 など)

### 3. 授業モデル案の方針

大学を卒業したときに生物学的な視点からの思考を養うことを目的とする。

<授業モデルの内容>

到達目標 1 : 基礎教育 (生物学とは何か)

到達目標 3 : 他分野との連携について膨らませて検討していく

- ・到達目標 3 の「目的」は気付き、「授業方法」は実体験、フィールドワークとする。
- ・他分野との連携または専門分野の中での連携も検討する。
- ・ICTは補完の意味で表面には出さず、議論、気付き、動機付けのため、コミュニケーションやプレゼンテーション、提示等のツールとして活用する。
- ・授業は15回にこだわらず、4年間の学びを通じての学習を念頭において作成する。

<具体例>

- ・遺伝子組み換え植物・食品
- ・生物多様性 (なぜ、多様性でなくてはいけないのか、絶滅の意味 (生物にとっての本質))
- ・里山  
※実体験、デジタル、グループ学習の組み合わせで基礎を学ばせる。  
※身の周りの自然をどのようにきちんと見るのかが重要

### 4. 次回委員会と課題

平成23年2月28日 13:30 より開催することにし、事前に上記の担当部分のモデル案を作成することが課題となった。